



不登校データは非公開、フリースクール等の実態もつかまずに多様なこどもの育ちを応援できるのか

不登校データは出せない…議会の質問のために資料を求めた際の市の教育委員会対応です。

国県の不登校調査基準は年間30日以上の欠席ですが、20人に一人という実態です。本当はこの何倍もの子どもたちが学校での学びに躊躇しています。自分の教室以外で過ごす子どもたちなどは不登校としてカウントされていません。

そして掛川の実態は闇の中。こどもが悪い、育て方が悪いと言った誤った見方が払拭され、いろんな育ちを認め、公的な支援が広がる必要性を感じます。教育委員会は生徒指導上の問題として学校内での学びの場しか視野に入れていませんが、学校以外にもオルタナティブスクールといわれるような多様な学びの場があります。しかし行ってみて保護者や指導者、こどもの声を聞くとかの実態把握を受けていません。

昨年9月、議会では市民の陳情を受け、国に対して

(一)不登校児童生徒やフリースクール等に関する詳細な実態調査を実施し、実態に即したきめ細やかな施策を実施すること

麻生発言を批判できない自民党

麻生太郎副総裁の上川外相への発言「おばさん」「そんなに美しい方だとは言わんけれど」にはあきれたが、もっとびっくりしたのは当事者の上川さんが「どのような声もありがたく受け止めている」と問題視しなかったこと。党内の発言を問題視もできない党であるということがまず信じられない。

女性活躍担当相の加藤鮎子さんも「コメントは控えたい」党の中で女性蔑視発言があっても許される、女性側にも批判ができない実態。上に立つ女性がこんな態度で女性が輝ける社会なんかつくれるはずありません。

ジェンダー平等度が政治分野で156ヶ国中147位というのも、家父長的な古い価値観から前に進めない自民党体質からきています。発言撤回だけで謝罪さえありません。

(二)不登校児童生徒が、家庭の事情に関係なくフリースクール等での学びの場を確保するため、保護者の負担軽減に資する経済的支援を早急に実施することという意見書をあげました。国だけでなく市に対しても「教育機会確保法」の理念に則って、学校以外の場でも「不登校児童生徒の状況に応じた学習活動が行なわれることとなるよう、不登校児童生徒及びその保護者に対する必要な情報の提供、助言その他の支援を行なうために必要な措置を講ずるものとする」とした条文に沿った対応が必要です。

静岡県不登校実態調査

(1) 小・中学校の不登校（年間30日以上欠席者）の推移

	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
小学校	1,435	1,706	1,981	2,056	2,642	3,321
県割合	0.75%	0.90%	1.05%	1.11%	1.46%	1.84%
国割合	0.54%	0.70%	0.83%	1.00%	1.30%	1.70%
中学校	3,612	3,984	4,300	4,321	5,388	6,126
県割合	3.78%	4.28%	4.68%	4.70%	5.86%	6.30%
国割合	3.25%	3.65%	3.94%	4.09%	5.00%	5.98%
計	5,047	5,690	6,281	6,377	8,030	9,447

(2) 学年別不登校児童生徒数

※表内の数は人数 ()内は新規不登校者数

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R3年度	135	237(171)	335(216)	454(241)	668(348)	813(413)	1,503(1,094)	1,908(865)	1,977(571)
R4年度	188	300(196)	426(263)	597(331)	774(406)	1,036(462)	1,735(1,226)	2,198(855)	2,193(618)

【令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より抜粋(県教育委員会HPより)】

「希望の給食」映画上映会

2/3に掛川市にオーガニック給食を実現する会が主催で開催。50人近い参加者と話し合いと思いの共有ができてよかったです。食の安全を考えている人、有機農家さん、子育て中の人、議員…



意見出し合っているうちに、オーガニックが無償化か、と対立するのではなく「無償化オーガニック給食っていいよね」「愛のこもったおいしい安心な給食をすべての子どもにプレゼントしたいよね」「農家も子育て負担に悩む親も支援したい」「みんなが手をつなぐことが大事。」などの意見に集約されていきました。

韓国が「親環境性」という言葉で、持続可能な農業生産を推進しているのも印象的でした。



市役所の垂れ梅